

## 国文学専攻（博士後期課程）の3ポリシー

### 【教育の理念】

国文学専攻（博士後期課程）は1967年に開設され、出身者は大学・短期大学の教員を始めとして、各地・各方面で活躍している。本専攻では、その伝統に則り、国文学に関する幅広い教養と専門分野の体系的な知識、それらを応用する技能、情報分析力と問題解決能力、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力を身に付け、国文学研究の発展に寄与し、その意義を社会に発信することのできる人材の育成を行うことを教育の理念とする。

博士後期課程では、国語学、古代前期（上代）文学、古代後期（中古）文学、中世文学、近世文学、近現代文学、漢文学と、伝統的な研究分野を幅広く指導する体制を整えている。この環境を生かし、高度な専門性を追求するのみならず、国文学を研究する上で不可欠な関連諸分野の学識をも身に付け、広い視野のもとに、先導者として個人の様々な能力および高度な専門知識を社会に発信する意欲を持った人材の育成を行うことを目指す。

また、大学院生自身の有する専門分野における能力に関して、その高度な展開の支援を行う。併せて、学界や教育界等におけるリーダーとしての役割を担う積極性、情報処理能力、コミュニケーション能力を修得させ、社会的活躍を担えるような指導も行っていく。

### 【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

国文学専攻博士後期課程は、教育の理念に基づいて定められた下記の3つの能力を身に付け、所定の期間在学し、国文学専攻が定める所定の単位を修め、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与する。

#### (DP1) 高度な専門分野の知識や技能の活用力

国語学・国文学・漢文学に関する高度な知識と幅広い知見を身に付けている。研究・教育機関等において、高度に専門的な業務に従事するために必要な高い研究能力および深い学識を有する、自立した研究者として活動できる。また、国際交流が不可欠となった現代社会において、専門知識の修得を通じて日本文学・文化を深く理解し相対化した上で、その価値や意義を世に広く発信することができる。

#### (DP2) 情報分析、課題設定および問題解決能力

自立した研究者として、国語学・国文学・漢文学の各分野において、独創的な観点から課題を設定し、専門的な学識や技能を用いながら継続的、発展的な研究の遂行と研究成果の蓄積、発信をすることができる。常に最先端の研究ツールや手法を取り入れながら専門的な研究の情報を収集するだけでなく、それらを分析・検討することによって、新しい知見を導き出すことのできる高度な判断力を有する。

#### (DP3) コミュニケーション能力

学術論文執筆や学会発表、研究会での研鑽などを通じて、自らの独創的な研究成果や新たな知見を国内外の学界に発信すると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に意見を述べるなど、主体的に協働することができる。また、従来分野を越えた新たな研究テーマに取り組むなど、意欲的に他者との交流ができる。また、研究倫理を踏まえ、適切な方法やツールを用いて自らの研究業績を発信し、自ら導き出した新知見の社会的な活用や定着を模索することができる。

## 【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

国文学専攻博士後期課程では、「修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた3つの能力を養成するために、国語学・国文学・漢文学に関する高度な研究能力を有する人材を育成するための総合的、体系的な教育課程を提供する。さらに、その教育内容については常に自己点検・評価を行い、不断の改善に努める。特に、博士後期課程における教育課程編成と実施は、授与する学位との関係において実質的な関連を有するものであり、かつその専門性は専門研究者としての必要不可欠な領域と対象を反映したものとする。

また、課程を通じた研究の成果として提出される学位論文について、その審査基準を明確にし、博士論文の評価結果を基に、学位を授与された者がさらなる研究の向上・進展を図ることができるように指導を行う。同時に、本専攻の指導のあり方や社会的責任について、改善を加える。

また、論文執筆や学会における口頭発表等の場において論文盗用などの研究倫理に反する行為が行われないよう、カリキュラムの全ての要素の中で研究倫理に関する意識の醸成を図る。

教育内容、教育方法、評価については、下記に定める内容に従う。

### 1. 教育内容

- 1) 講義科目は、豊かな専門知識と研究能力のさらなる向上を目的として、先行研究の批判的検討、文献購読、データ収集指導、論文作成等に関わる教授と指導を行う。
- 2) 研究指導科目は、専門領域・研究課題に応じて博士論文作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより、緻密な研究指導を行う。演習形式で研究指導を実施することもある。

### 2. 教育方法

- 1) 講義科目では、豊かな専門知識と発展的な研究能力を深化させ、少人数での個別・グループ形式で授業を行う。
- 2) 研究指導では、課題設定の独創性、研究計画の妥当性や実現性について客観的に評価・助言し、学術論文執筆や学界発表の指導を行い、博士論文作成に向けての研究業績を積み上げる。
- 3) 研究指導を中心とする、博士論文の作成指導においては、教員と学生との間で「提出要件」、「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し、密接なコミュニケーションを取りながら指導する。
- 4) 講義科目と研究指導科目は単独のものではなく、有機的な関連をもって各学生の研究活動を支える。
- 5) 学生は「駒澤大学大学院国文学会」会員として、研究雑誌『論輯』の発行、「大学院秋季研究発表大会」の開催など、自主的な研究活動を行い、教員はそれをバックアップする。
- 6) 博士論文の提出については、指導教員が進捗状況だけでなく、国文学専攻で定める「提出要件」を満たしていることを確認する。提出された博士論文の審査にあつては、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力、語学力を身に付けていることを詳細に確認する。
- 7) 研究倫理教育は、一般的な内容についてはeラーニング等の方法で学び、国文学研究特有の研究倫理については、研究者として自立して研究を遂行できるよう、研究指導を通じて補完する。

### 3. 評価

博士後期課程では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ、学修成果の評価・測定を行う。

### 4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

| 授業科目等  | 履修単位 | 配当学年 | DP1 | DP2 | DP3 | 各科目等のねらい  |
|--------|------|------|-----|-----|-----|---|
| 講義科目   | 4    | 1～3  | ◎   | ○   |     | 専門分野の高度な知識および情報収集・分析などの研究活動上必要な研究手段・手法について、さらに深化させる。                          |
| 研究指導   | —    | 1～3  | ◎   | ◎   | ○   | 個別の研究テーマに基づき、指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行い、学術論文の作成および学会発表等を通じて、最終的に博士論文にまとめる。 |
| 博士論文   | —    | —    | ◎   | ◎   | ◎   | 研究の集大成として、自ら設定した研究テーマに関し、独創的な観点から、新たな知見を示す論文を作成する。                            |
| 研究倫理教育 | —    | 1    | ○   | ○   | ◎   | 研究者として求められる基本的な研究倫理を身に付け、意識して研究活動を行う。   |

#### 【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

国文学専攻博士課程は、研究領域に関する専門的知識や研究技術を身に付けた学生のうち、博士課程に入学した後も主体的に専門知識を深め、研究活動を行う明確な目的意識と熱意を持った入学者を求める。国語学・国文学・漢文学の各分野において、幅広い教養と深い学識を身に付け、研究・教育を始めとした各分野で先導者として個々の能力および高度な専門知識を社会に発信する意欲を持った人材を求める。

こうしたことに対する理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するため、国文学専攻の特性に応じた入学者選抜を行う。

#### 1. 求める学生像

- (AP1) 国語・国文学・漢文学に関する知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 国文学専攻で継続する研究の成果、および専門的知識や技能を社会に還元し、貢献しようとする強い意欲と明確な目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 国語学・国文学・漢文学に関わる対象について主体的に課題を設定し、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく根拠をもって、独創的に論理展開することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 多様な他者の考えや価値観を尊重して協働しつつ、自らの研究業績を適切なツールを用いて発信する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

## 2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

| 入学試験制度     | 選抜方法    | AP1 | AP2 | AP3 | AP4 | 各入学試験制度のねらい  |
|------------|---------|-----|-----|-----|-----|--|
| 一般入学試験     | 出願書類    | ○   | ◎   | ◎   |     | 修士課程レベルの基礎的な専門知識があると認められる者に対し、研究に必要な専門知識や語学力を重視した選抜を行う。筆記試験は外国語試験のみ。面接試験では、専門知識と研究意欲の確認等を行う。 |
|            | 筆記試験    |     |     |     | ○   |  |
|            | 面接試験    | ◎   | ◎   | ◎   | ○   |  |
| 社会人特別入学試験  | 実施していない |     |     |     |     |  |
| 外国人留学生入学試験 | 実施していない |     |     |     |     |  |